

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100487		
法人名	株式会社 育成		
事業所名	グループホーム 育成会 長生の望・灯・楽		
所在地	〒084-0915 北海道釧路市大楽毛南4丁目6番8号 (電話) 0154-57-7650		
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成22年3月23日	評価確定日	平成22年4月6日

【情報提供票より】 (平成22年2月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 19人 非常勤 0人 常勤換算 10.4人	

(2) 建物概要

建物構造	S 造り		
	3階建ての 2～3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	34,000 円
敷金	有() 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 30,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成22年3月23日現在)

利用者人数	17	男性	3名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.44	最低	70歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	見田デンタルクリニック・新橋なかやクリニック・星が浦病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は3階建ての建物のうち2, 3階部分を使用している。各ユニットの共有部分は広く明るくゆったりとくつろげる空間となっていて、エレベーターが設置されている。1階部分は、多目的ホールとして使用し、リハビリテーションの用具やカラオケを設置して機能訓練や楽しみの場となっている。また町内会の会議場として無償で提供している。事業所や町内会の行事に参加する人も年々多くなり、近隣住民とも顔なじみもでき、挨拶したり、気楽に話しており、地域と密接な交流を図っている。職員を各種の研修会に参加させてサービスの質の向上に努めている。利用者は家庭的な環境のもとで明るく楽しく暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回課題の職員研修は、グループホーム協議会研修会、地域包括支援センター学習会、保健所講習会等シフトを組んで積極的に受講し、サービスの質の向上に努めている。消防訓練は年3回避難訓練を行い、職員は消防計画に基づく任務を熟知しており、避難場所の誘導に町内会の参加協力を得ている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	ユニット毎に全職員で自己評価を行い、理念に基づく介護や支援、気づき等を話し合い、意見交換をし、事務長が助言して結果を確認し、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催している。会議のメンバーは地域包括支援センター職員、町内会代表、家族会代表、事業所からは、施設長、事務長、職員代表であり、利用者の生活状況や事業所の取り組み状況等を報告して助言を得、会議結果を記録して職員会議で検討し、改善に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	苦情相談窓口を設置して意見箱や電話等で受ける体制があるが、日頃から来訪時や電話で話しやすい雰囲気づくりに努めている。意見や相談がある時は各ユニットの責任者や事務長へ報告し、職員会議で話し合っ改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	事業所の駐車場での屋外パーティーや盆踊り、ミニ運動会等開催し、利用者や家族、地域の人が参加して顔なじみができ、利用者の散歩中に挨拶を交わしたり、庭の花を見せてくれたり、気楽に話しかけている。救急訓練や避難訓練には町内会の協力を得ており、津波警報時には事業所の3階を地域の避難場所に使用するように知らせている。事業所1階の多目的ホールを町内会の会議場は無償で提供するなど地域と密接な交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内 容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	尊厳や権利を損なわず、家庭的な環境の中 で地域住民との交流の下で、安心して暮ら し続けることを支えていく、事業所独自の 理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各ユニットの玄関に掲示し、職員は 毎朝の申し送り時に唱和している。年1 回、町内会や利用者の家族に声をかけて、 運営者が事業所の理念についての研修会を 行い、理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	事業所の駐車場で行事（周年祭の屋外パー ティーや盆踊り）や町内会のミニ運動会を開催 し、家族、町内会員などが参加して、利用者 と一緒に楽しみ、顔なじみとなっている。津波警 報時には、事業所の3階を地域の避難場所に使 用するように知らせている。事業所1階の多目 的ホールを町内会の会議場に無償で提供して いる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	ユニット毎に職員全員で自己評価を行い、 理念に基づく介護や支援、気づき等を話し 合い、意見交換をし、事務長が助言して、 結果を確認し、サービスの質の向上に努め ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催している。会議のメンバーは、地域包括支援センター職員、町内会代表、家族会代表、事業所職員が参加し、利用者の生活状況や、事業所の取り組み状況の報告をして助言を得、会議結果を記録して職員会議で検討しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や地域包括支援センターに出向いて、情報を得たり、利用者の相談などして助言を得、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回事業所の行事や利用者の近況を掲載した「育成通信」を発行して家族に郵送しており、金銭出納帳は、コピーして同封している。利用者一人ひとりの健康状態等については、家族の来訪時や電話、手紙で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置して意見箱や電話等で受ける体制があるが、日頃から来訪時や電話で話しやすい雰囲気づくりに努めている。意見や相談がある時は、ユニット責任者や事務長へ報告し、職員会議で話し合って改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットごとに全職員が利用者のことを把握して馴染みの関係を保ち、異動や離職者が出て利用者にダメージを与えない取り組みをしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修（グループホーム研修会、地域包括支援センター学習会、保健所講習会等）はシフトを組んで積極的に受講し、職員は自己啓発をし、スキルアップに努め、事業所も支援しサービスの質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症高齢者グループホーム協議会、道東ブロックの研修会に参加して同業者と交流を図っている。また職員交換研修を行い、研修の報告書を作成して全職員に配布し、運営者のコメントをもらい、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者と家族が事業所を見学して雰囲気に馴染み、利用者が納得した上で入居するよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から料理や掃除の工夫など教えてもらったり、新聞記事のニュースや政治の話等学んだり、また、多目的ホールで機能訓練や、カラオケを楽しんだり、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの尊厳を大切に、利用者の思いや希望を日々の会話や行動と表情で気づき、声かけ等で把握できるように、努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各ユニット毎に介護支援専門員が利用者の身体面や精神面のケアについて利用者、家族、職員と話し合い、確認して、意見を反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っているが、体調などに変化が生じた場合は、家族に報告し、職員会議を開催して話し合い介護計画を見直している。新入居者は1週間様子を見て、1ヶ月毎に見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外泊、病院受診は、基本的には、家族が対応するが、家族の要望があれば送迎支援をしている。趣味活動の外出支援や、個別の買い物支援など多機能を活かした柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりのかかりつけ医の定期受診を受けている。異変が生じた場合は直ちに受診できるように支援している。2週間に1度訪問看護ステーションから来てバイタルチェック表で体調管理している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者と家族と話し合い、指針を得ており、医師や訪問看護師と連携をとり、スタッフにも方針を周知して共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所内研修でプライバシーの教育を行い、日常的に利用者一人ひとりの自尊心を傷つけない言葉かけをして接するようにしている。個人情報の記録等は事務所内の書庫に保管し管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭にいる雰囲気大切に、利用者一人ひとりのペースで新聞を読んだり、チラシを見て食べたい物を話したり、天気の良い日は散歩や、外出したり、利用者の思いや希望に沿って日々の暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の準備や後片付けを職員と一緒にし、食器や、盛り付けを目で楽しみ、味わう喜びを感じられるようにしている。季節の桜餅や、おはぎを一緒に作り、食事が楽しみになるように、日常生活の中で支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的にはいつでも入浴できるように準備している。利用者一人ひとりが週2・3回入浴するように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが笑顔で楽しく日々を見守りながら、趣味のカラオケ、ちぎり絵、書道、墨絵などを行い、認められる喜びを感じたりすることで張り合いの持てる生活になるように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望に沿って、天気の良い日は、外気浴、散歩、ドライブ、買い物、外食の支援をしている。利用者の希望で友人宅訪問の送迎支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中、鍵をかけず、帰宅願望の人には、職員が見守り、気配りをしてケアに取り組んでいる。防犯上夜間は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回消防署の指導を受けて防災訓練（通報、消火、避難誘導）を実施している。災害時の備蓄品や夜間を想定しての避難誘導訓練を計画している。津波警報時に事業所の3階を地域の避難場所に使用するよう知らせている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一度体重測定を行い、センター方式を使いながら、毎日の食事量、水分量を記録し、食材を活かした味付けや、水分摂取の少ない人には、好みの飲み物で必要量を確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階の多目的ホールは、リハビリテーションの用具やカラオケを設置し、機能訓練や楽しみの場となっている。各ユニットの共有部分の壁に職員と利用者の共同作品のちぎり絵や写真、墨絵、書道など展示して生活感を感じさせている。廊下には、壁付きの折りたたみ椅子を設置し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れた馴染みの物を置き、利用者の好みに応じて、居心地よく過ごせる配慮をしている。		

※  は、重点項目。